

報道関係者各位

平成 29 年 5 月 2 日

【第 11 回 1 型糖尿病研究基金 研究費助成課題決定】
9 年間の継続研究助成、移植技術（神の手）を AI に伝授等 3 件に決定



全国の 1 型糖尿病患者・家族を支援する私たち認定特定非営利活動法人日本 IDDM ネットワーク（理事長 井上龍夫、本部 佐賀市）は、1 型糖尿病根絶（＝予防＋根治＋治療）を目指す研究の助成課題を下記の通り 3 件決定いたしました。

○ 1 型糖尿病を発症しない動物モデルの確立と発症抑制機序の解明

研究代表者： 宮寺浩子筑波大学医学医療系助教

助成金：100 万円（9 年間）※前回に引き続きのため通算 10 年継続助成となります。

http://japan-iddm.net/data/grant/2016_tsukuba.pdf

<理事長コメント>

今回は 11 回目と言う新たなスタートとして、1 型糖尿病根絶のために 2025 年までの長期継続の研究助成をメニューに加えて公募いたしました。その第 1 号の研究助成となります。

また、日本は女性研究者の割合が 20% だまりという報道も目にいたしました。女性研究者が安心して継続的に研究できる一助になれば幸いです。

○ 膵島分離技術の AI ロボットによる標準化

研究代表者：大田佳宏東京大学大学院数理科学研究科特任教授

助成金：100 万円（5 年間）

<理事長コメント>

人工知能（AI）を用いて、神の手を持つ日本の移植医の技術を分析し AI ロボットに再現させ、世界一の膵島分離ができるロボットを創り出す研究です。

膵島移植にあたって、膵島分離の成功率が世界でも群を抜くこの移植医の技術を AI とロボットを導入することで、神の手を凌ぐ技術が世界的標準として世界中の 1 型糖尿病患者のために貢献できることを期待しています。

また、世界に先駆けて先端医療と AI の融合の具体例を日本の研究者が創出ことは、国策にも合致し他の難病にも応用されることを願っています。

○糖尿病治療用遺伝子改変ブタの開発

研究代表者：宮川周士大阪大学医学系研究科准教授

助成金：100万円（1年間）

<理事長コメント>

私たちの推進している「バイオ人工膵島移植」と直接的に関連するテーマですので、すでに私たちが助成している研究者の方々との積極的な連携により、オールジャパン体制で、日本のオリジナルな医療として根治を実現してほしいと願っています。

日本IDDMネットワークが早期の臨床実現に向けて期待しているバイオ人工膵島移植プロジェクトは下記をご参照ください。

http://japan-iddm.net/bio_iol_pjt/

■研究費助成について

1型糖尿病患者・家族が中心となって運営する日本IDDMネットワークでは、2005年の1型糖尿病研究基金設立後、これまで32件、1億6200万円の研究費助成を行ってまいりました。

当基金は、患者・家族自らが「不治の病を治る病にする」、「不可能を可能にする」挑戦に賛同いただいた方々からの当法人への直接の寄付並びに“佐賀県庁への「日本IDDMネットワーク指定」ふるさと納税”など、日本全国の方々からのご支援で成り立っています。

今回の公募は、11回目という新たなスタートとして、1型糖尿病根絶のために2025年までの長期継続の研究助成を採択いたしました。国内の研究者の方々安心して基礎研究に携われる一助にもなればと思っています。

≪1型糖尿病とは≫

原因不明で突然、小児期に発症することが多く、現在の医学水準では発症すると生涯に渡って毎日4-5回の注射又はポンプによる補充がないと数日で死に至る難病。糖尿病患者の大半を占める生活習慣病と称される2型糖尿病に対し、国内での年間発症率は10万人当たり1-2人と希少な病であるため患者と家族の精神的、経済的負担は大きい。

【お問い合わせ先】

名称：認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク

所在地：〒840-0823 佐賀県佐賀市柳町4-13

担当者：理事長 井上龍夫、事務局 大村あずさ

電話：0952-20-2062、080-5127-2759（井上）、080-5243-0671（大村）

Fax：020-4664-1804

E-mail：info@japan-iddm.net

WEB：<http://japan-iddm.net/>